

炊き出しの準備をするボランティアの信者



温かい食事は何よりのご馳走



悩める多くの当事者たちの心の拠り所になっている



2階まで吹き抜けになっている1階ロビー

地域社会と共に歩む教会へ



札幌司教区「札幌カトリックセンター」がオープン

近代的な外観を見せる「札幌カトリックセンター」

機に、04年に札幌司教区内の相談・間の医療法人に経営委譲されたのを機に、04年に札幌司教区内の相談・

先述した「カリタス家庭支援センター」は、2003年7月に同内唯一のカトリック病院「天使病院」が民間の医療法人に経営委譲されたのを機に、04年に札幌司教区内の相談・

フトを組み、毎週水曜日の午後1時からカレライスなどの温かい食事を提供してきた。



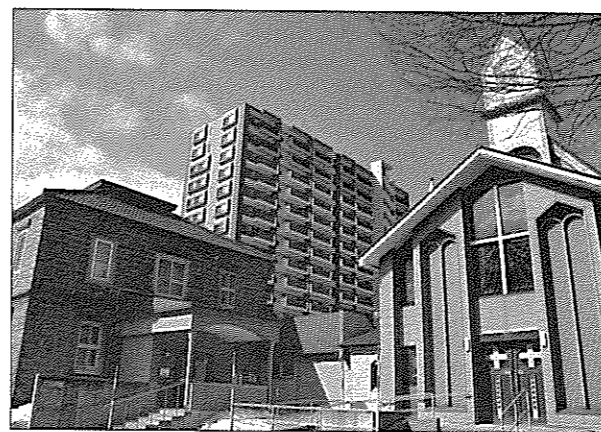
札幌司教区では、所有する敷地の一部をマックスバリュ北海道(本社札幌)との間で20年間の定期借地契約を締結。マックスバリュの新店舗は7月末にオープン予定

支援機関として開設された民間団体。社会福祉士、精神保健福祉士ら相談員が人間関係や病気、生活援助などの相談に乗り、必要に応じて訪問・同行支援も行なっている。

同センターでは、8年前から相談支援活動の一環として「カリタス当事者研究会」もスタート。当事者研究は日高地方の沿岸部、浦河町にある精神障害者のコミュニティ「べてるの家」で始まった取り組み。カリタス当事者研究会でもべてるの家と同様に、苦労や生き辛さを抱える当事者が「専門家」となって仲間と一緒に研究を行なっており、誰でも自由に参加することができる。

道内には約1万6000人のカトリック信者がいるといわれる。ただ、信者は横ばいから減少に転じ、教会運営は厳しい時代を迎えているという。「長年の念願であった新司教館が完成し、札幌教区第2世紀の第一歩がスタートしました。信仰を途切れさせないためにも家庭での祈りを大切にしながら歩んでいきたいと思えます(勝谷太治司教)

■宗教法人カトリック札幌司教区
札幌市中央区北1条東6丁目10番
(☎011・241・2785)



歴史を感じさせるカテドラルホール(左)とカトリック北一条教会

ローマ教皇を頂点に全世界に広がるキリスト教・カトリック教会。その北海道全域を所管する宗教法人カトリック札幌司教区(勝谷太治司教・中央区)が建設していた新司教館「札幌カトリックセンター」が2月1日竣工した。これまで札幌司教区では、相談支援や路上生活者への炊き出しなど社会貢献活動にも取り組んできた。新たな活動拠点が整備されたことで、地域社会に開かれた教会への期待が高まる。

札幌司教区、第2世紀へ

札幌司教区は、1915(大正4)年に函館教区から分かれた「札幌知牧区」をルーツとし、100年以上の歴史を誇る。このほど完成した札幌カトリックセンターは、旧司教館や本部施設「ベネディクトハウス」の老朽化に伴い昨年春に着工していたもの。

国道12号(北1条通)沿い。札幌市の中央体育館の向かいに立地する近代的な建物は、地下1階、地上4階建てで延べ床面積は2422㎡。地下1階は納骨堂、1階は教会行事などで約300人収容できるエントランスホールや会議室、2階は札幌司教区本部をはじめ相談・支援機関「カリタス家庭支援センター」や集会室。3階は司祭用の宿泊施設、4階は司教、司祭の居室フロアという構成。

敷地内には札幌軟石を使って1898(明治31)年に建てられたカテドラルホール、1916(大正5)年竣工のカトリック北一条教会が残され、いずれも札幌景観資産に指定されている。

その札幌司教区が10年以上前から続けてきたのが路上生活者や生活困窮者への炊き出しだ。市内のカトリック教会の信者7、8人がボランティアでシ